

4. 杉並区の農業の現状と課題

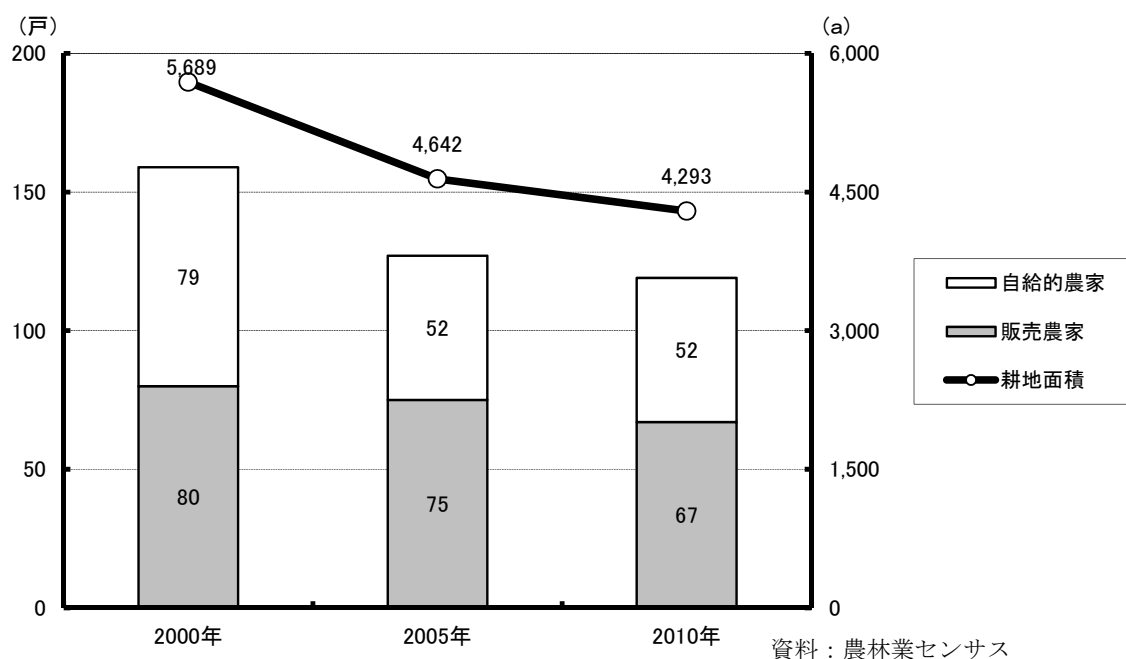
(1) 農業生産の状況

1) 農家数・耕地面積の推移

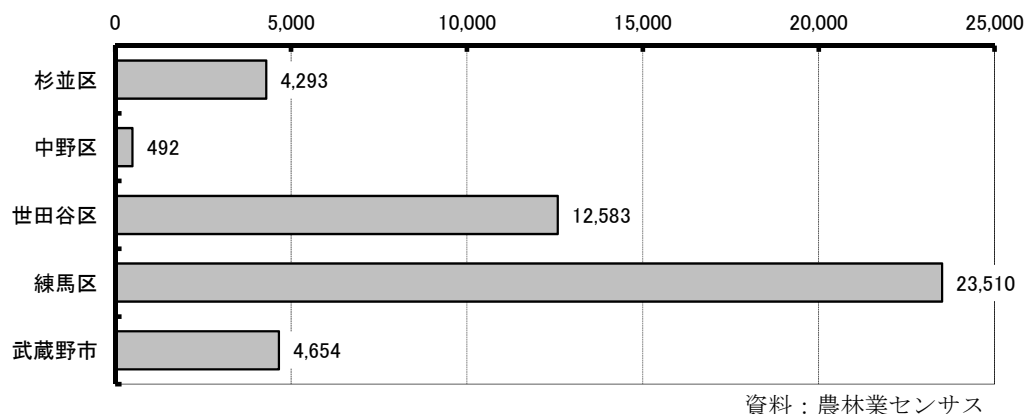
○農家数、耕地面積共に年々減少する一方 農地は10年前の7割5分に

- ・農林業センサスによると杉並区の農家数※は、2000年から2010年の10年の間で159戸から119戸に減少している。また耕地面積は5,689aから4,293aと75%になった。
- ・なお、平成23年度杉並区農業経営実態調査によると区内就農者は170件となっている。

■図表 4-1 杉並区の農家数及び耕地面積の推移



■図表 4-2 耕地面積の比較（近隣区市との比較）2011 年



※農林業センサスでは、「農家」とは「経営耕地面積が10アール以上の農業を行う世帯又は過去1年間における農業生産物の総販売額が15万円以上の規模の農業を行う世帯」をいう。

2) 主な栽培品目

○杉並区はトマトの収穫量が最も多いのが特徴的である

中野を除けば、だいこんとキャベツの収穫量はいずれの近隣区市においても多い

■図表 4-3 主な野菜・果樹の収穫量（近隣区市との比較）

杉並区	中野区	世田谷区	練馬区	武蔵野市
品 目	品 目	品 目	品 目	品 目
トマト	カリフラワー	だいこん	キャベツ	だいこん
だいこん	ばれいしょ	こまつな	だいこん	キャベツ
キャベツ	トマト	ばれいしょ	ばれいしょ	ばれいしょ
ばれいしょ	だいこん	キャベツ	ブロッコリー	ブロッコリー
ねぎ	なす	トマト	こまつな	こまつな
ブロッコリー	かんしょ	ブロッコリー	ねぎ	とうもろこし
かんしょ	きゅうり	ねぎ	えだまめ	ねぎ
さといも	ブロッコリー	さといも	ほうれんそう	ほうれんそう
とうもろこし	はくさい	えだまめ	とうもろこし	えだまめ
えだまめ	—	かんしょ	さといも	さといも
キウイフルーツ	—	ぶどう	ぶどう	日本なし
くり	—	うめ	ブルーベリー	ぶどう
うめ	—	くり	キウイフルーツ	キウイフルーツ
ブルーベリー	—	日本なし	うめ	ブルーベリー
—	—	ブルーベリー	日本なし	くり
—	—	—	くり	—

資料：東京都農作物生産状況調査結果報告書（平成 21 年度）

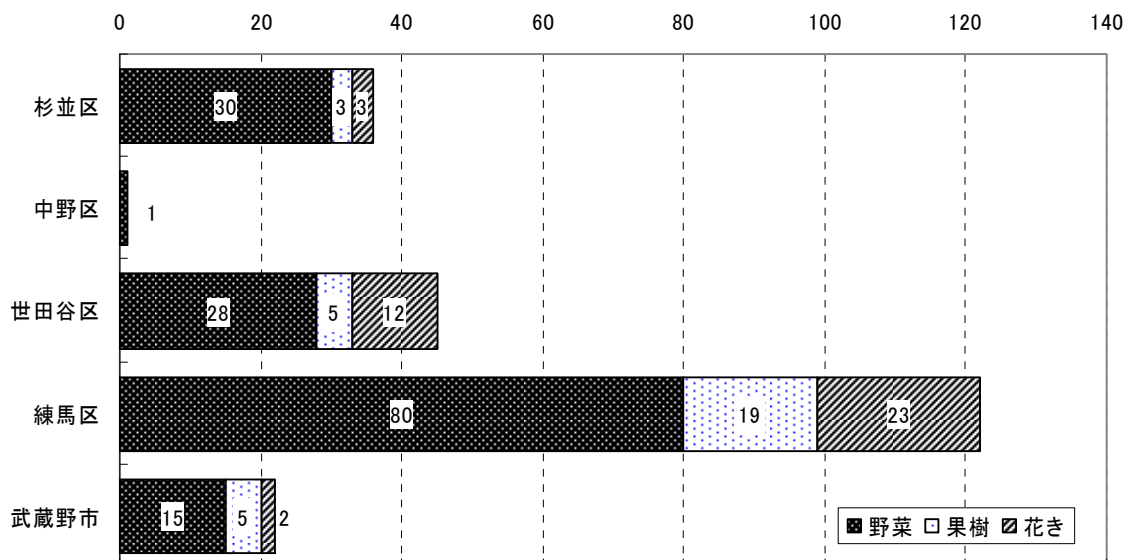
3) 農業産出額

○農業産出額を近隣区市と比較すると、練馬区（122 千万円）が最も多く、杉並区（36 千万円）は世田谷区（44 千万円）より少なく、武蔵野市（22 千万円）、中野区（2 千万円）より多い

※合計は必ずしも野菜、果樹、花きの生産額の合計と一致しない

■図表 4-4 農業算出額（近隣区市との比較）

（単位：千万円）



資料：東京都農作物生産状況調査結果報告書（平成 21 年度）

（２）農業の取り組みと認知度・評価

１）農業の取組み【農業実態調査（ヒアリング調査）より】

①基本項目

〔生産状況〕

○少量多品種の野菜の生産が主流

- ・年間を通して少量多品種の野菜を生産している農家が多い。大部分が直売されており、消費者のニーズに合わせて品目を増やす努力をしている。
- ・新鮮な野菜を地域の方に食べていただくことが農家の働きがいになっている。



○特徴ある品目を生産する農家もある

- ・栽培の難しい花卉やバジル、施設栽培のフルーツトマト、ブルーベリーの鉢植え、養鶏など特徴ある品目に絞り込むことにより、高付加価値化を図る農家もみられる。

〔ニーズの変化〕

- ・野菜は、以前よりやや品種が増えているものの流行は少ない（一時期流行した野菜でも定着しないことが多い）。新鮮で安い野菜を求めるニーズは変わらない。
- ・花卉は、特にガーデニング用の花苗など、流行やブームに合わせて品種を変えている。
- ・30年以上前は植木がよく売れた時期があり、住宅地の中での栽培にも適していたが、近年は庭木の需要が少なくなったため売れなくなってきている。

②農業の継続と経営の方向

〔出荷先〕

- ・野菜の大部分は、畑に設置された直売所（コイン式の販売機を設置する所もある）や、JAの直売所などで直売される。
- ・花卉は市場出荷が多く、都内の市場に自ら持ち込んでいる。花卉の一部や植木は、造園業者に出荷される。



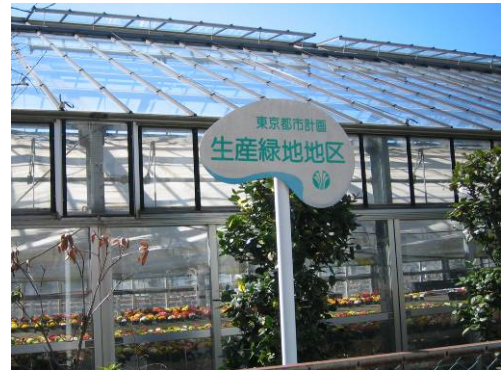
〔農業収入以外の収入〕

○不動産収入がほとんどで農業収入はごく一部である農家が多い

- ・農業収入だけで生活している農家はほとんど見られない。アパート、マンション、駐車場などの不動産収入が収入の8～9割を占めることも普通である。野菜農家の中には、農業に限れば赤字というケースもみられた。
- ・稀なケースと見られるが、収入の9割が農業収入という花卉農家もあった。

〔生産緑地の指定〕

- ・規模の小さな農家はほとんどの農地について生産緑地の指定を受けている。規模が大きくなるとすべてを農地として管理しきれないため生産緑地の指定を受けず、宅地化農地の位置づけで営農したり、区民農園にしたりする場合がある。また、規模の小さな農家でも、相続対策として宅地化農地にしておき、後継者が出てきた時点で指定を受ける場合もある。



〔農業継続の意向〕

- ・「自分の代は農業を続ける」という農業者が多い。基本的には子どもなどに後を継いでもらいたいと考えており、いずれ継いでくれるだろうとの見方も少なくない。既に、子どもが農業を手伝っている（もしくは主体的に経営している）所もある。
- ・ただし、相続が発生した場合には農地の一部を手放さざるを得ない農家も多く、小規模な農家では農業の継続が困難になることも想定している。

※なお、平成 23 年度杉並区農業経営実態調査（N=151）によると、「後継者が決定している」44.4%、「未定である」29.1%、「廃業予定」23.2%となっている。また、廃業の理由（N=39）は、「後継者がいない」43.6%、「相続税負担」38.5%などとなっている。

〔経営方針〕

- ・基本的には現状維持であり、少量多品種の生産や直売を中心に考えている農家が多い。
- ・少数ながら、特徴ある品目に絞って高品質・高収益を目指す農家や、6次産業化に向けて加工・販売施設の整備や農家レストランを検討している農家もあった。

〔農業を続けることが困難になった場合の希望〕

- ・現実には宅地化せざるを得ないとの声がある一方、公的な支援によって農地（あるいは緑地）として残したいとの希望が多い。可能ならば、区などの公的機関が区民農園や公園等として買い取ってほしいとの意見も聞かれた。農地として貸したいとの声もあった。
- ・その他、後継者の判断次第とする農家も少なくない。



③地域住民との交流

- ・直売所での農産物の対面販売や、畑での通行人との会話といった形の交流が多い。
- ・幼稚園や小中学校などの見学・収穫体験や農作業体験の受け入れ、学校給食への食材提供を行っている農家もみられる。また、食育について学校で話をする農家もいる。
- ・農薬や肥料の使用は、周辺住民に気を使って控えている農家が多い。
- ・外から畑が見えるようにブロック塀を外すなど、景観に配慮している農家もみられた。



地元野菜デーの給食(和田小学校 HP より)

④農業に対する区の支援策について

○都市農業や農産物のPRの充実を望む声が多い

- ・区民に対して、都市農業や農地の必要性、農産物のPRをしてほしいとの意見が多く聞かれた。区が作成した直売マップやのぼり旗などは評価されており、さらなるPRの充実が望まれている。
- ・PR策の一つとして、即売会などのイベントを増やしてほしいとの声が多い。また、ふれあい農業体験についても、農業に対する理解促進につながるという観点から前向きに受け入れたいとする農家が多い（一部には効果を疑問視する声もあった）。



○意欲的農業経営者の支援制度は、農家によっては今後も利用意向がある

- ・既に支援制度を活用してハウス等を整備した農家もあり、今後も条件が合えば制度を利用したいとしている。一方で、新規の設備投資の余裕がない、支援制度の条件に合わない（事業費が大きすぎる等）といった理由から、利用は考えていないとの農家も多い。
- ・機械設備や資材・肥料などへの支援を望む声も多い。

○体験農園を開設できる条件を有する農家は少ない

- ・ある程度面積のある農家でないと区画が取れないため、杉並の農家では条件が合わない所が多い。
- ・指導はやりたいという方と、自信がないという方と、自分で作ることが好きなので指導にまわるつもりはないという人に分かれた。



○区民農園に取り組む人は少数派

- ・比較的多く農地を持っており、全て生産緑地では管理しきれないため区民農園にしているという動機が多い。
- ・相続の納税猶予が適用されないので全く興味が無いとする農家は少なかった。
- ・生産緑地でも区民農園ができるようにしてほしいという声はあった。



○農業ボランティアに関心のある農家がいる一方、良くない評判もある

- ・農業ボランティアは、人手が足りない時や高齢で農作業ができなくなった場合に、草取りなどの単純作業を依頼したいという農家は少なくない。
- ・一生懸命働いてくれるという声がある一方、草取りを嫌がる、慣れてくると態度が悪くなるといった評判もあり、アルバイトの方が頼みやすいという農家もあった。

○災害時の農地・農産物提供について、農家の意識は概ね高い

- ・災害時のオープンスペースとして、延焼防止、避難所、仮設住宅の敷地、防災拠点、食糧供給等、農地が果たす防災機能を評価するべきとの意見が多い。実際に、防火水槽を備えている農地や震災時に避難場所として受け入れた所もあった。
- ・農家だけでなく区民への周知も必要とする意見が聞かれた。



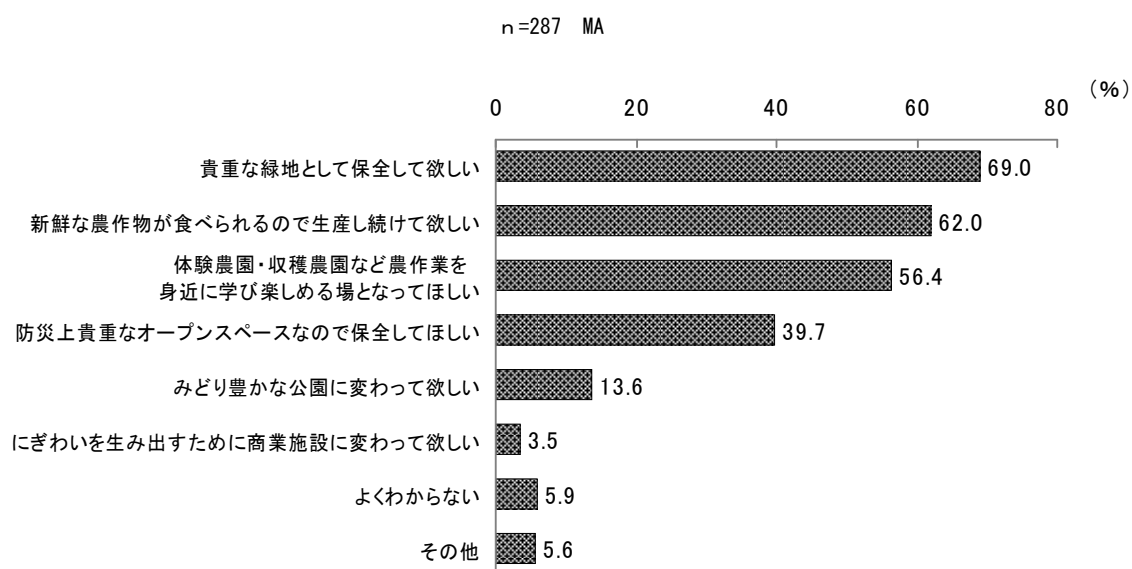
2) 農業の取組みに対する区民の認知度・評価

<杉並区の農業について>

●区の農業の現状について思うこと

- ・区民の約7割（69.0%）は、「貴重な緑地として保全」されることを希望している。また、「新鮮な農作物の生産」「農作業を学び楽しめる場」を希望する回答も過半数と多く、公園としてよりも農地としての役割を期待する声が多い。また、「防災上貴重なオープンスペース」としても約4割（39.7%）が評価している。

■図表 4-5 杉並区民の区内農地に対する意見

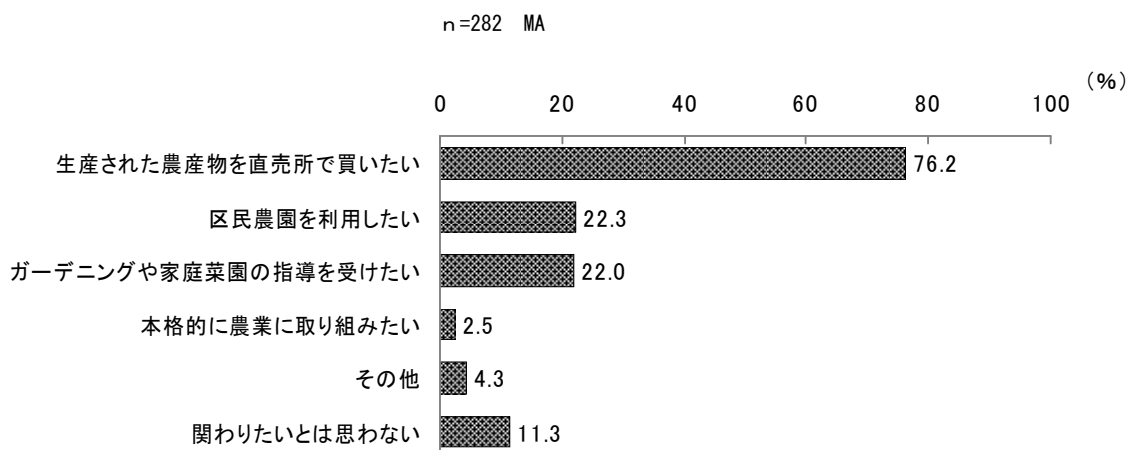


資料：杉並区の産業に関する区民意向調査

●農業との関わり方について

- ・区民の農業との関わり方については、「農産物を直売所で購入したい」との希望が 7 割以上（76.2%）と最も多い。また、「区民農園の利用」や「ガーデニング・家庭菜園の指導」など、趣味・余暇等としての農業に関心を寄せる区民もそれぞれ 2 割程度みられる。

■図表 4-6 区民が望む農業との関わり方



資料：杉並区の産業に関する区民意向調査

●農業に関する区民の意見

<農地を保全する>

- ・杉並に農地が残っていることは知らなかった。農地は是非保全し、何らかの形で地域振興に役立てて欲しい（天沼 2）。
- ・環境面を重視し、現在の緑地が減らないよう各行政機関が連携して、対応を早急に練ってほしいと思います（井草 2）。

<産業として育成する>

- ・ビルの中で野菜を作り、安全な野菜として商品化し杉並区の産業として発展して欲しい（阿佐谷北 1）。

<これまでの政策を継続する>

- ・農業についてはこれまでの区の政策を継続して欲しい（久我山）。
- ・近くに農産物の直売所があり、便利ですが、もっと種類が多いといいなと思います（松庵 1）。

<農業に接する環境づくりを>

- ・農業に興味があるので、区民が農業に接する環境づくりをしてほしい（方南 1）。

<直売所を整備する>

- ・農産物直売所が増えると良いですね（井草 2）。
- ・農作物の大きな直売所を区で整備する（和田 3）。

資料：杉並区の産業に関する区民意向調査

（３）杉並区の農業の課題

１）農地保全のための課題

○制度上の問題

- ・区民の多くは農地の保全を望んでいるものの、農家は税制や生産緑地等の制度が変わらない限り農地は減少していくと予測している。特に相続に伴って農地を手放さざるを得ないとする農家が多い。
- ・これら制度上の問題は国や都に改正や特例措置等を働きかけていく一方、都市における農地の必要性をアピールしていくべきとの意見も聞かれた。いずれにしても、区と農協が一体となって農業を支援していくことが求められる。

○農地の多面的機能の活用

- ・都市の農地が果たす役割として、緑豊かな環境・景観、新鮮な農産物の提供（地産地消）、食育等の教育的効果、防災機能等が期待されている。特に防災拠点として見直し、農家や区民に対して周知を徹底させていく必要性が指摘されている。
- ・また、区民が農業・農地にふれあう場として区民農園や体験農園があるが、種々の理由から現状では農家は整備に対して消極的である。区が主体となって区民が自由に利用できる農業公園を開設することも考えられる。

２）農業継続に向けた課題

○農産物等のＰＲ・販売機会の充実

- ・ほとんどの区内農家にとって農業は生計の手段ではないが、地域住民に農産物を提供することが働き甲斐となっている。新鮮・安全な杉並農産物のＰＲをさらに充実させるとともに、即売会等のイベント、商店街の空き店舗を活用した直売所の開設、地元商店との連携等、区民への販売機会を増やしていくことが求められる。

○農業経営の収益性の向上

- ・意欲的な農業経営者や後継者を育成していくためには、農業収入を増やしていくことが必要となる。そのため次のような方策と課題が考えられる。
- ・農産物のブランド化について、アピオスの特産品化の取り組みは必ずしも広まっていない。定番の農産物も含め、農家間の情報・技術の共有によって、品質の向上や価格の適正化等を図っていくことが求められる。
- ・農産物加工や農家レストラン経営等、六次産業化に意欲のある農家もあり、こうした取り組みを国の制度等を活用して支援していくことが考えられる。
- ・将来的に、区内の農地の集約化を図ることは効率的な農業経営につながる。そのためには、農地の貸借・売買の促進が必要となる。
- ・高度な施設栽培や植物工場の導入については、費用対効果を見きわめた上で促進することも考えられる。

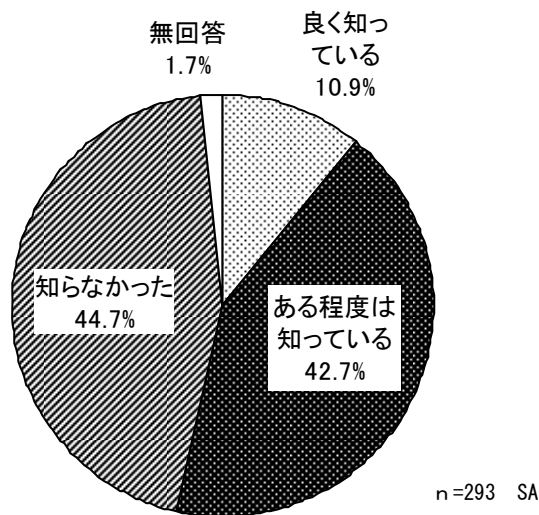
5. 杉並区のアニメーション産業に対する区民の意識

1) アニメーション産業の認知度

○杉並区がアニメスタジオ集積地であることを約5割の区民が知っている

- ・杉並区にアニメスタジオが 70 以上集積していることについて、「良く知っている」区民は 10.9%、「ある程度は知っている」区民は 42.7%であり、合計すると 53.6%の区民が知っていることになる。

■図表 5-1 アニメスタジオが杉並区に集積していることの認知度

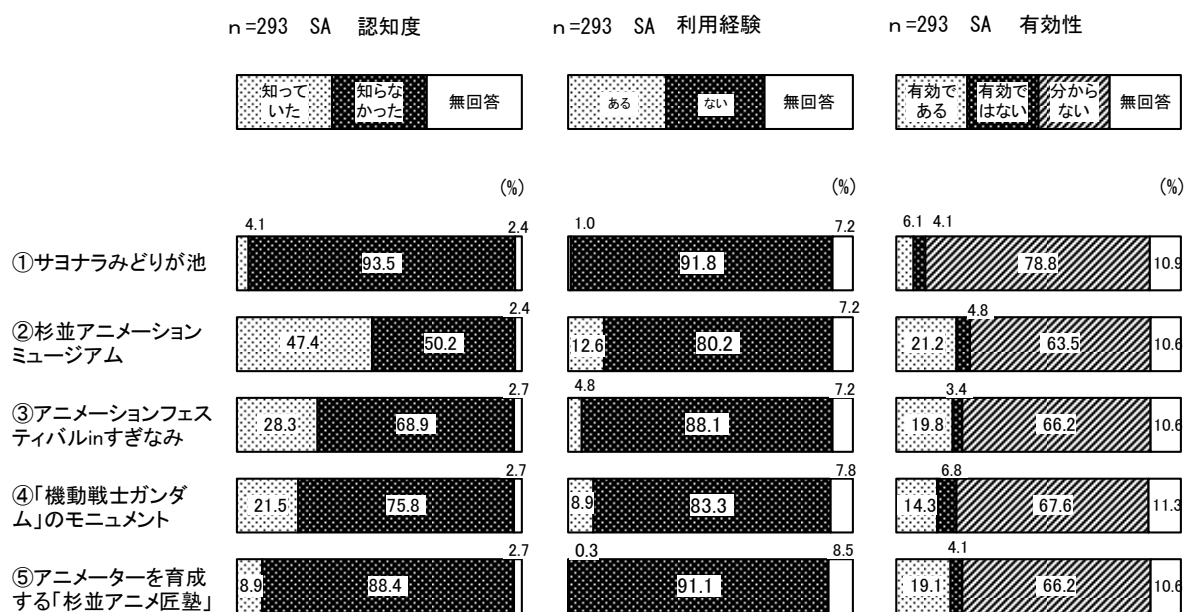


資料：杉並区の産業に関する区民意向調査

○アニメーションミュージアムを知っている区民は5割、利用した区民は1割

- ・アニメーション産業に関連する杉並区の取組みについては、「杉並区アニメーションミュージアム」が最も認知度が高く約5割の区民が知っていた。また、「アニメーションフェスティバル in すぎなみ」は約3割、「機動戦士ガンダムのモニュメント」は約2割の認知度となる。
- ・利用経験については、最も認知度の高い「杉並区アニメーションミュージアム」でも約1割となっている。
- ・取組みの有効性は、取組み内容を知らない区民が多いことから、「分からない」とする回答が多い。

■図表 5-2 アニメーション産業に関連する区の施策の認知度・利用経験・有効性の意識



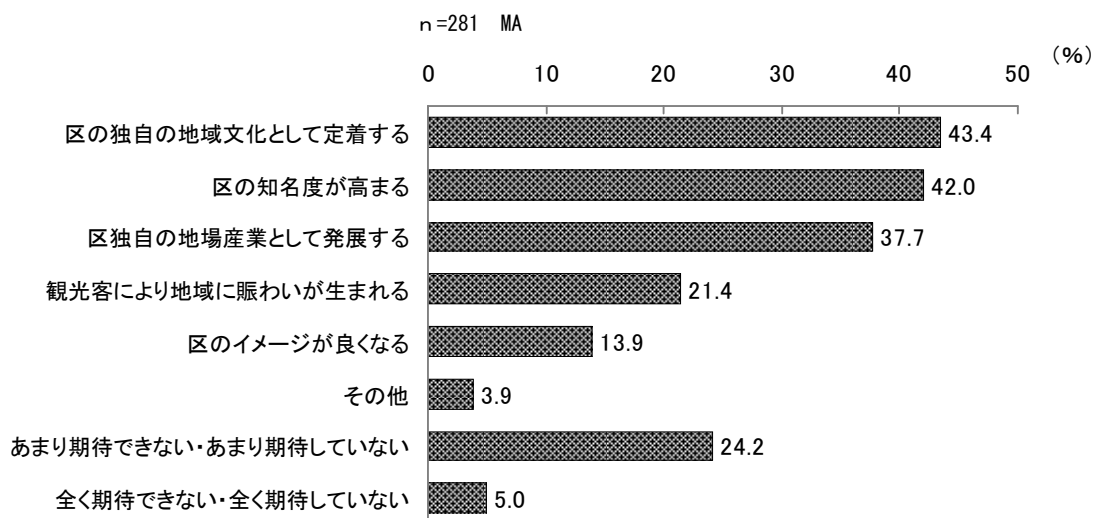
資料：杉並区の産業に関する区民意向調査

2) アニメーション産業に対する期待

○アニメーション産業は地域文化として定着、区の知名度向上、地場産業の発展のために期待されている

- ・アニメーション産業の振興を進めることにより期待できることは、「区独自の地域文化として定着する」(43.4%)、「区の知名度が高まる」(42.0%)、「区独自の地場産業として発展する」(37.7%)が4割前後で指摘が高い。

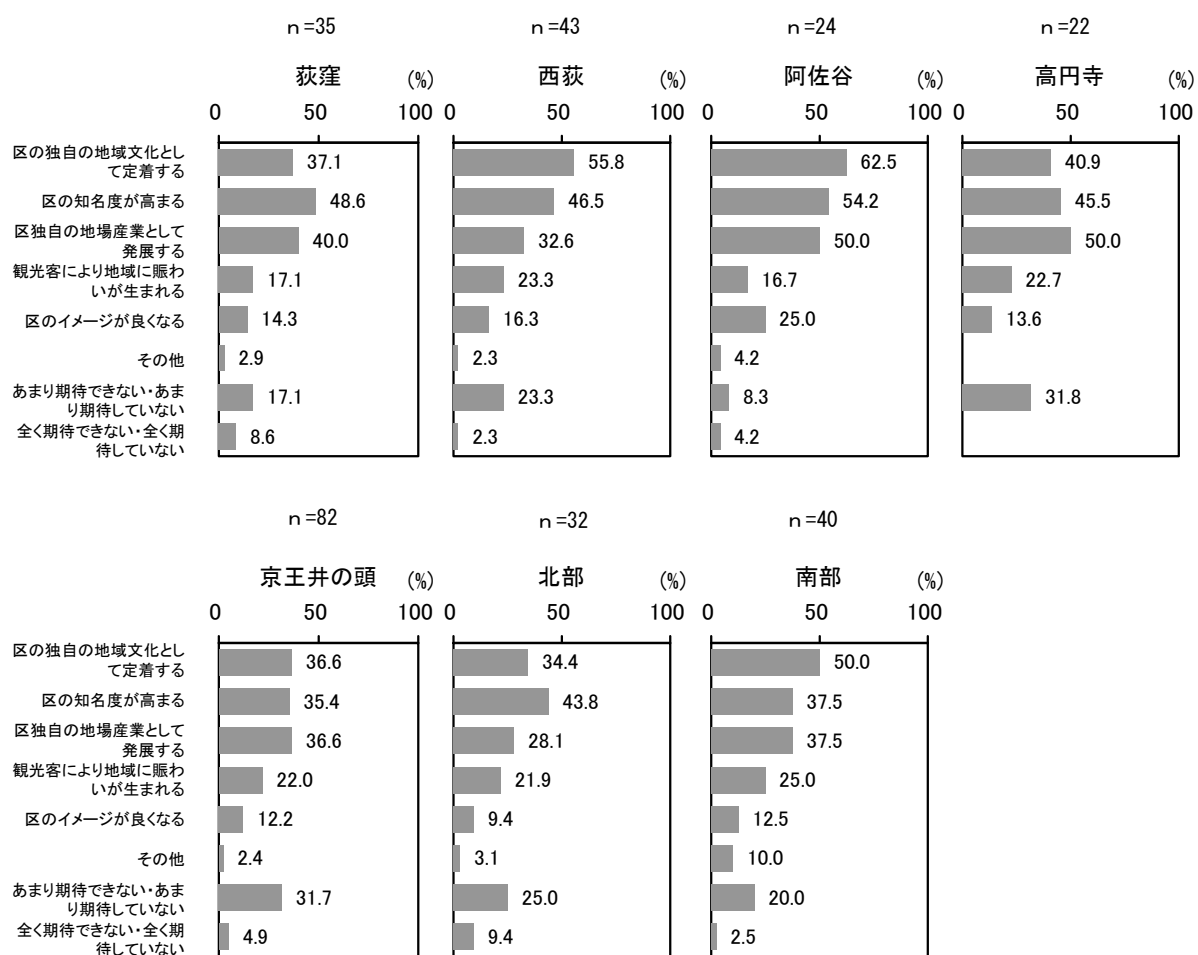
■図表 5-3 アニメーション産業に対する期待



資料：杉並区の産業に関する区民意向調査

- ・地域別にみると、阿佐谷地域は「区独自の地域文化として定着する」(62.5%)、「区の知名度が高まる」(54.2%)、「区独自の地場産業として発展する」(50.0%)で他の地域に比べて指摘が高い。
- ・京王井の頭地域は、期待していない割合(36.6%)が最も高い。

■図表 5-4 アニメーション産業に対する期待(地域別) MA



資料：杉並区の産業に関する区民意向調査

3) アニメーション産業についての区民の意見

資料：杉並区の産業に関する区民意向調査

＜アニメ産業を発展させる＞

●独自の地場産業として発展してほしい

- ・杉並区民の職場が増えるように大きな産業にして欲しい（阿佐谷北1）。
- ・区の産業としてアニメーションは嫌いではないので、地場産業の発展を望むことは良いことであると思います。地域独自の文化を発展させることはとても大切です。他の地域にない独自の文化は、その地域の経済価値を高める大切な要素となるからです。この場所にしか存在しない文化を創っていくことが、将来的に求められていくのではないかと思いますので、良い方向に進んでいくことを望んでいます（南荻窪1）。
- ・アニメ産業をもっと広げていってほしいと思います（上荻4）。

●良い作品を発信してほしい

- ・世界中の人が感動するような作品をもっとたくさん生み出して欲しいと思います。（阿佐谷北1）。

＜アニメ産業の支援＞

●アニメをもっとPRする

- ・アニメ産業について、今後も継続して育成してほしい。アニメ産業関係者、今後志す人達に対しても杉並区が育成に力を入れていることが明白であるよう全国的にPRしてはどうか。「アニメの杉並」製作の継続性が大事。これまでの区の投資が無駄にならないためにも（久我山）。
- ・杉並区は世界有数のアニメスタジオの集積地になっているそうですが、実感がありません（阿佐谷北1）。
- ・アニメ産業のことは我々一般にあまり知られていないように思うのですが、もっとアピールの方法を考えられたらと思います（阿佐谷

南3）。

●他の自治体と比べて支援の取り組みが遅れている

- ・「アニメのまち杉並」としての取り組みは良く知っているが、アニメ産業に力を入れている他の多くの自治体に比べて、突出しているとは言えないように思う。埋もれているような印象。

＜アニメを生かしたまちづくり＞

●杉並が舞台のアニメを制作

- ・なみすけは人気があるが、その他は？なみすけもアニメというより区のシンボリックな存在としての人気ではないか。他の自治体では既に行われているが、杉並区を舞台としたアニメのイベントを開いたり、それをモチーフにした商品券の発行、区内商店街とコラボしてスタンプラリーなど取り組みが考えられる。アニメを知らない人、興味のない人へも広がっていくような、独自の取り組みがあるのもっと良い。アニメーションフェスティバルは楽しそう（特に子供向けに）だが、ミュージアムへのアクセスがあまり良くないので、わざわざ足を運ばないという人が多いのではないか（下井草4）。
- ・アニメーション産業に力を入れるのはとても良いと思います。かわいいだけではない大人が楽しめるアートな町にしていきたいです。その際に緑豊かな公園を空きスペースに作って、オブジェを置いたりするのもステキだと思いますし、商店街で買った食べ物をそちらで食べたり休憩したりする場所があると良いと思います。最近人気のマルシェを開くのも良いと思います（梅里1）。
- アニメーションミュージアムへのアクセスが悪い
- ・ミュージアムへのアクセスがあまり良くないので、わざわざ足を運ばないという人が多いのではないか（下井草4）。

●日本文化を支える地域としてモデルケースに

- ・職業がらアニメの制作会社が杉並に多くあるのは知っていましたが、産業振興策は知りませんでした。CGの会社もあつたりするので、そう言った文化の特色は前面に出していくのは素晴らしいと思います。その会社で働く人も移住してくるかもしれませんし、付随してアニメやCGの学校なども増えれば、世界中の人々に発信できると思います。色々な取り組みをして、世界に日本文化を支える地域としてのモデルケースになってほしいと思います（高井戸東3）。

●アニメーターの育成・支援を

- ・アニメーターの育成・支援は素晴らしい取り組みと思う。地位、環境の支援を是非してあげて、アニメーターを集め、アニメの街として栄えて欲しい。質の高い企業が育つと嬉しい（地域不明）。

●なみすけを活用

- ・区のマスコットキャラクターの“なみすけ”が可愛くて大好きです。アニメとなみすけのコラボで区の認知度、イメージアップにつながってもらえると子供から高齢の方まで親しみやすい楽しい町になると思いました。ぜひ、アニメーション化とさらなるグッズの商品化をお願いしたいです（地域不明）。

●練馬と連携する

- ・アニメ産業は隣接する練馬区においても地場産業として位置づけている。アニメ産業を世界に誇る日本の文化として捉えるなら、杉並区、練馬区という行政単位で振興を考えると、税金の二重投資になり効率的ではない。連携はできないだろうか（上荻3）。

<アニメのまちづくりには賛成しない>

- ・アニメ産業はアニメーターを育成しても、職場がなければ先がない。動画を発信したり、投票、ランキングなどネットで広げ、知名度

をもっと上げなければならないが、質が高くないと事務の人間がいくら頑張っても無駄（堀ノ内3）。